

特別の教科 道徳 第1学年 学習指導案

1 主題名 「多文化の理解を深める」 C-18 [国際理解、国際貢献]

2 資料名 「違いを乗り越えて」 出典「あすを生きる1・2・3」(日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値観について

現在の日本では、オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、外国人選手団や旅行者の受け入れに力を入れている。実際に2019年の訪日外国人は3100万人を超え、半世紀前の50万人の60倍以上である。同様に在留外国人も260万人を超えており、少子化日本の労働力を支える重要な存在である。これからの社会を考えると、国際理解や、我が国の伝統文化を外国人と共有し共に生きて行くことは欠かせないテーマである。日本の習慣や文化のよさを理解するとともに、他の国々の人々や文化に対する理解を深め、互いに尊重しようとする意欲をもたせることをねらいとする。

(2) 教材について

主人公「私」の家にインドネシア人のAさんがやって来た。日本とインドネシアには生活習慣やマナーなどの違いがあるため、ホームステイ中、二人は迷いながらも互いに異文化を学び合う。Aさんと母が交流している姿、そしてそれを見た「私」の思いから、違いは違いとして尊重する大切さ、また友好的な関係を築きたいという願いは、同じ人間として共通していることを生徒に気づかせたい。

(3) 生徒の実態について

本学年では、海外旅行等で異文化に触れた経験をしたことがある生徒が全体の半数以上を占め、海外で生まれ育った経験や海外にルーツのある生徒も在籍している。相手を思いやることや、相手の考えや行動を尊重することがよりよい関係づくりで大切であることについては、頭では理解しているが、周りの雰囲気の流れに流され、誤った行動をとってしまうことがある。しかし、相手の意見を聞き入れたり、教員の呼びかけや指導等に対しても、素直に自己の言動・行動を振り返り、改める生徒が多くいる。本教材を通じ、お互いを尊重し合うことの大切さに気づかせ、異文化理解とともに、友人とのよりよい関係づくりへと繋げていきたい。

4 指導に当たって

(1) 教材提示の工夫

「食」については、教科「日本語」で10月～11月に取り扱った。本時の導入部分では、「海外から来た他国の方に紹介したい日本の食べ物」というテーマで、日本の文化と他文化のそれぞれの違いや良さについて考えさせるところから、教材の話題に入っていく。

(2) 板書の工夫

授業の流れを視覚的に捉えやすい板書にする。

5 本時

(1) 本時の目標

他国の方と接する際、お互いの文化や習慣を尊重し合うことが大切であることに気づかせる。

(2) 話し合い活動の工夫（感染症予防も含む）

感染症予防として、話し合い活動を行う際は生徒間の距離が近づきすぎないように注意を促すとともに、必ずマスクを着用させ、飛沫感染の防止に努める。話し合い活動では、4人グループで活動を行うことにより、各生徒に考えを出させる機会を与えるとともに、生徒同士で考えを共有し、深められるようにする。また、グループ内で話し合った内容を学級全体で共有できるようにする。

(3) 本時の展開

時 間	主の学習活動と主の発問	予想される生徒の反応	◇教師の支援・指導上の留意点 ◆評価の観点
導 入 10 分	<p>1 事前のアンケート結果を紹介する。 「海外から来た他国の方に紹介したい食べ物は？その理由は？」</p> <p>2 教材について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お寿司、お刺身、天ぷら ・日本ならではの料理だから。 ・日本の文化を楽しんでほしい 	<p>◇意見の多かった食べ物や理由を紹介する。</p>
	<p>【登場人物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私ー主人公の女子中学生。 ・母ー私の母。外国の若者のホームステイを受け入れ、国際交流を広めている。 ・Aー <u>インドネシア</u>からの留学生 <p>※¹ インドネシア共和国…インドネシアは「インドの島々」という意味で、1万3千以上の島々からなる国である。人口は2億5500万人で世界第4位（2019年4月）首都はジャカルタ（ジャワ島）で時差は日本と2時間。国民の約85%が²イスラム教徒である。</p> <p>※² イスラム教…世界三大宗教の1つ。冠婚葬祭や食事・礼拝の際の教えや決まり事があるが、その解釈や実践方法には、宗派や国・地域、文化や個人によって異なる。一般的には、ハラール（許された行為・物）とハラーム（禁じられた行為・物）という考えに基づき、1日5回のお祈りや服装の制限（肌の露出を避ける）などがある。食事に関しては、豚肉（豚由来成分も含む）を口にしてはいけないことや断食月（ラマダーン）などがある。</p>		
			<p>◇ホームステイとはどんなことか、イメージさせる。</p> <p>◇写真でインドネシアの様子を伝える。</p>
展 開 35 分	<p>3 教材の範読を聞く。</p> <p>4 Aさんの気持ちについて考える。</p> <p>○ Aさんはどんな気持ちでお刺身を食べて続けたのだろう（教師が指名して生徒に答えさせる。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ち悪いけど、食べなきゃ。 ・お刺身に興味がある。 ・せっかく勧めてくれたから食べよう。 ・食べないと失礼だから食べよう。 	<p>◇初めての環境の中、Aさんが今まで食べたことのない異文化の料理を食べる時の気持ちを十分に共感させる。</p> <p>◇「私」がAさんの本当の気持ちに気がついていないことに気づかせる。</p>

	<p>5 文化や生活習慣の違いを感じたとき時、どうすればよいか考える。</p> <p>○ そば屋でちょっとしたけんかになってしまった。お互いどうすればよかったのだろう。(教師が指名して生徒に答えさせる。→板書する)</p> <p>6 母とAさんの様子から、ねらいにせまる。</p> <p>○ 言葉の通じない母がAさんと仲良くなれたのはなぜだろう。(教師が指名して答えさせる。)</p> <p>7 本時で気付いたことをもとに考える。</p> <p>◎ 私たちが他国の人と接する時、どんなことを大切にしていけばよいだろう。(個人でノートに書く→グループで話し合い、意見をまとめる→各班が発表する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」がAさんに配慮して、音を立てずに食べればよかった ・Aさんが日本の習慣に合わせればよかった ・自国のことばかり言わず、どちらも相手のことを考えればよかった。 <p>・母とAさんがお互いを思いやって、理解しようと努力しているから</p> <p>・一生懸命、思いを伝えようとする気持ちがあったから。</p> <p>・お互いの文化のよさや違いを知ろうとすること。</p> <p>・押しついたり、無理に合わせたりせず、違いは違いとして受け入れること。</p> <p>・同じ願いに向かって協力し合える関係を築くこと。</p>	<p>◇ 生徒の考えを板書する際、「私」についての考えか、Aさんについての考えかを視覚的に分かるよう、色を工夫して板書する。</p> <p>◇「私」とAさんのお互いに思いやりが足りなかったことに気づかせる。</p> <p>◇お互いに良い関係を築きたい思いは同じことに気づかせる。</p> <p>◇お互いの文化や伝統等を尊重し合っている気持ちが根底にあることに気づかせる。</p> <p>◇違いを認め、お互いを尊重し合うことの大切さに気づかせる。</p> <p>◆お互いの文化や習慣を尊重し合う関係を築くことが大切であるといった発言や記述が見られたか。</p>
<p>終末5分</p>	<p>7 ねらいに関わる教師の話聞く。</p>		<p>◇ 授業の始めと終わりの変化に気づかせる。</p> <p>◇ 学校や学級等、身近な友人とのよりよい関係づくりにも通じる部分があることを伝えるとよい。</p>

(4) 板書計画

◎

他国の人と接する上で大切なこと

- ・お互いの文化の良さを知る
- ・違いを違いとして受け入れる
- ・協力し合える関係を築く

○

そば屋でのけんか
お互いどうすればよかったか

私が音を立てずに食べればよかった
Aさんが日本の習慣に合わせる
どちらも相手のことを考える

アンケート結果

違いを乗り越えて